

はじめに

子育てには悩みや迷いが付きものです。大小の差はあっても、みんな悩んでいます。もちろん私もそうです。でも、不安なのは自分だけに違いないと思いこんでしまうと、毎日がつらくなってしまいかもしれません。

私は以前、育児雑誌の編集長を務めていましたが、休刊になったときに会社勤めをやめました。このチャンス逃すまいと思い、児童心理を改めて一から学ぼうと夜学に通い、幼児教育の現場を知ろうと私立幼稚園で「保育実習」を始めました。万年保育実習生としての通園は今年度で13年目になります。

そうしたなかで募ってきたのは、「このこと、子どもがもつと小さいうちに知っていたら楽になれたのになあ」「園の先生方にとっては当たり前知識でも、親にとっては知らないことばかりじゃないか

しら」「子どもたちが園内でどんなふうに通っているのか、お母さんたちはもつともつと知りたいはず」といった思いでした。

母親としての不安を経験し、先生方の保育の意図もある程度理解でき、編集者として専門家に取材することも多い私って、面白い「立ち位置」にいるのではなからうか……。そんな僭越な考えが頭をよぎって以来、「保護者と幼稚園の懸け橋にならう」が、私のライフワークになりました。

本書を通して少しでも不安が和らぎ、「今知ってよかった」と感じていただけて、さらにそこから元気の素が生まれたとしたら著者として幸せです。お母さんの元気は子どもの安心につながっているのですから。

本文中、お母さんお父さん、ママパパの表記が混在したままになっています。ご家庭でお子さんからさまさまに呼ばれている現実に合わせて、あえて統一しませんでした。どれもご自分のこととしてお読みいただければと思います。

はじめに……………2

第1章

幼稚園生活へのヒント……………7

1学期

- 年度初めの幼稚園……………9
- 新入園児のお弁当＋アルファ……………16
- 年次別の保護者の悩み「年少さん」……………22
- 年次別の保護者の悩み「年中さん・年長さん」……………27
- ドラマを通して考えたPTA活動とママ友関係……………32
- 雨の日もまた楽し！……………39

2学期

- いじわるされた？「年中さん・その1」……………45
- お友達の個性を知る「年中さん・その2」……………52

運動会の楽しみ方とマナー……………57

「我慢」の体験、させていますか？……………62

幼稚園のママ友は悩みの友でもある……………68

園内でケガをしたとき、させたとき……………74

年長さんは秋にぐぐつと成長する……………81

3学期

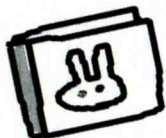
- 行事に込められた意味……………89
- 家庭教育と幼児教育の違い……………95

第2章

子育てのヒント……………101

子どもの育ち

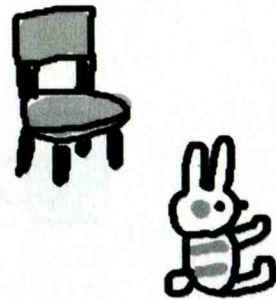
- 子どもの姿から学ばべきこと……………103
- ワンセンテンス会話からの脱却……………108



お手伝いのすすめ……………114
 近視から子どもを守ろう……………119
 家庭でできる食育……………125

親の学び

誰のための子育てポリシーか？……………131
 お父さんの子育てをサポートしよう……………137
 お父さんはお父さんであれ！……………142
 心の中の竜を育てる……………146
 「トイレめし」の芽は幼児期に出る？……………151
 失敗は力なり！……………155



年度初めの幼稚園

新年度が始まる幼稚園の春。3年保育、2年保育の新入園児のご家庭では、お友達ができ
 るかしらと心配しているかもしれませんね。進級児のご家庭でも、今度の担任の先生は
 どんな人かしら、仲良しのお友達とクラスが分かれてしまったけれど大丈夫かしらとご心
 配かもしれません。

何かと心配な年度初めですが、心配するのは情報が少ないからということもあるでしょ
 う。4月、5月はこんな感じですよというところを押さえておいていただき、親の不安が子
 どもに伝わらないようにしたいものです。

年少さん……誰と遊んだかなんて聞かないで

年少さんのクラスは、とつてもにぎやかです。みんなが勝手にやりたいことをやってい
 るという感じ。園庭で走り回っている子もいれば、歌いながら粘土をこねている子もいる
 し、積木遊びやおままごとで夢中になっている子もいます。

意外なのは、おままごとが好きな男の子がたくさんいること。嬉々として野菜を包丁で切ったり（もちろん、おもちゃの包丁）、お鍋をかき回したり、せつせとテーブルセッティングをしたりして楽しみ、私をお客に呼んでくれます。男の子はおままごとセットがおうちになくて珍しいのかもしれないね。

二人並んで「調理」をしていても隣の子と話すわけではなく、それぞれが一人遊びのことが多いのですが、この時期は「幼稚園は楽しいところ」と感じられることがいちばんですから、それでいいのです。

担任が園庭で遊ぶ子どもたちに「そろそろお部屋に集まりましょう」と声をかけても、「今やっている楽しいこと」を中断できない子どもまだいますが、無理やりお部屋に連れ帰ったりせずに見守り、副担任やフリーの先生が「お部屋にも楽しいことがあるらしい」と気づかせる方向でフォローしていきます。

お友達の名前にまだ興味を示さないのも普通のことです。帰宅後に「今日は誰と遊んだの？」と聞いて「わかんない」という返事が返ってきたとしても、がっかりする必要はありません。幼稚園が自分の居場所になってから、ようやく周りに目が向き始めます。なかには、名前なんか知らなくても「ねえねえ、砂場で一緒にトンネル作らない？」などと声

をかける、「場慣れ」の早い子もいますが、なにごとにおいても幼稚園時代の早い遅いは個性のうちと考えましょう。

入園後2〜3か月して、お友達の名前もわかって一緒に遊ぶ場面が増え始めるころ、こんなことをつぶやくお母さんがいます。

「Aくんはさすが4月生まれだけあって、先生ともしつかりお話できているみたい。うちの子はお友達と遊んでばかりだけど、先生にいいたいこともいえなくているんじゃないかしら」

少し前まではお友達ができるかしらと心配していたのに、また次の心配ですね（笑）。お母さん方には、先生と上手に会話している子がしつかり者に見えてしまうようですが、必ずしもそうとはいえません。

子どもにとって、「理不尽なことをいわない話を通じる大人」と会話するのは楽なことなのです。Aくんは「時々むちゃくちゃなことをい出す子ども」との会話が苦手で避けているだけの、幼さを残した子なのかもしれないのです。周りの大人が自分の気持ちを察してくれる環境で育った一人っ子なのかもしれませんね。ですから、子ども同士でちゃん

と遊べているわが子のほうが、実は頼もしいといえるのかも。

繰り返しますが、幼稚園時代の早い遅いは個性であるし、誤差のうちでもあります。心配しすぎないことです。

幼稚園になかなか慣れてくれず、毎朝泣かれて気が滅入る方も多いはずですが、「うちの子は大丈夫」と思っただけで明く別れることが、結果的には慣れへの近道です。

年中さん……ままごと遊びから家族ごっこへ

年中さんのクラスでも、この時期はまだまだおままごとセットが活躍します。女の子も男の子も一緒に楽しんでいます。

でも、よく見ると単なるおままごとではなく、家族ごっこに「進化」していたりするんです。お母さん役の子がエプロンを着けていたり、犬や猫のペット役で参加している子がいたり。時には「お父さん」が会社から帰ってきたりします。かわわり合って遊ぶ楽しさがわかっている子どもたちです。

3月まで使っていたお部屋に遊びに行つて、「ここ、なつかしい」なんて発言し、年少さんに対してちよつぱりお兄さんお姉さんぶりを見せつけたりも。

クラス替えがあつた場合は、最初は年少組で同じクラスだったお友達と遊びながら周りの様子をうかがうこともあります。全員が顔見知りですから、これはほんのいつとぎのこと。年少の1年間でお友達に関心をもつ力が育っていますから、年中からの新入児や転入児に対しても「一緒に遊ぼう」と自然に声がけができます。

なかには、お友達や担任など環境が変わつたことに敏感になつて、朝、お母さんと別れがたかつたり涙を見せたりする子もいますが、いつの間にか克服します。

年長さん……得意分野を褒められたい

年長さんになると、嬉しそうに小さい子のお世話をする姿が見られます。年少さんに砂場でシャベルを譲つたり、年少さん同士のシャベルの取り合いに気づいて、別のシャベルを持ってきてあげたり。その表情には「僕（私）たちは幼稚園でいちばん大きい子」という晴れがましさを感じられます。

春休みに練習したのか、なわとびやフラフープ、鉄棒が急激に上手になつて披露してくれる子もいます。おうちでも、できて当たり前という反応はやめて、「たくさん練習してえらかったね」と努力を認めてあげましょう。

一方で、自分の苦手分野に気遅れを感じる子も出始めます。先生はその子の性格を考え、言葉を選び、「最初から上手にできる人はいないよ」「先生と一緒にやってみよう」などと励ましたり、苦手分野には触れずに得意分野を褒めたりと対応していきます。おうちでも「どうして○○が苦手なのかしらねえ」なんて決まらずに、わが子のタイプを考えながら声がけして、子どもの気持ちに向き合ってもらってあげてください。

新しい園児たちに出会う春は、先生方にとっては「どんなタイプの子かな？」と観察する大切な時期でもあります。観察眼が優れていれば、その子にふさわしい対応の仕方がすぐに察知でき、その子が早く「幼稚園は楽しいところ」と感じられるようになる道筋をみつけることができます。

そんな重責のない「万年保育実習生」の私にとつては、楽しい情報を得られる得がたい季節。あ、ほら、B子ちゃんが電話をかけていますよ。

「○○ピザですか？ Mサイズ1枚配達お願いします」

うふふ、B子ちゃんは○○ピザがお好みなんですね。

Cくんに「サイトー先生です。仲良くしてね」といったら、「うん、わかった。じゃ、仲

良しの印」といってほっぺにチューをしてくれました。むふふ、Cくんちでは普段から仲良しの印が飛び交っているに違いありません（笑）。

お父さんお母さん方、ご家庭の様子はけっこうバレています。気負わずに先生と仲良くなりましょう。

